

## 令和6年度学校評価アンケート結果に対する反省・改善意見

### 学力の向上に関する質問

#### 1 充実した授業を行っていると思いますか。

・「肯定的評価」（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）の数値は以下の通りであった。

| 年度  | R6(2024) | R5(2023) | R4(2022) |
|-----|----------|----------|----------|
| 生徒  | 83.6     | 89.1     | 87.1 (%) |
| 保護者 | 81.8     | 82.1     | 79.6 (%) |

○生徒の評価が例年より低くなったが、今年度からアンケートの実施方式が変更となり、より現実的な数値に近づいたのではないかと分析する。保護者の評価については大きな変化がみられないが、生徒の評価とのギャップについても考察し、改善を目指したい。

#### 2 少人数授業・習熟度別授業は生徒の学力向上に役立っていると思いますか。

#### 3 各小テストや各教科から出される課題は、学力向上に役立っていると思いますか。

・質問2への回答について、昨年度比で生徒が－10.2ポイント、保護者が－8.1ポイントと大きく下がっている。質問3に対する生徒の回答においては－15.4ポイントで、こちらの意図が生徒にうまく伝わっていないということが考えられる。今後の授業の在り方について、早急に検討を進める必要がある。

○ICT機器の活用、生徒の興味・関心を高める授業を目指して、更なる改善が必要である。

### 自律心・規範意識の育成に関する質問

#### 4 生徒の規範意識を高めるための指導を適切に行っていると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒76.7%（前年度比－7.5ポイント）、保護者72.7%（同一－8.5ポイント）との結果で、大きく低下している。基本的生活習慣の確立を中心とした規範士気の高揚について、さらに啓蒙していく必要がある。。

#### 5 スクールカウンセラーの面談は、生徒への精神的な支援に有効だと思いますか。

・生徒の評価は昨年度とほぼ同様の結果となっており、理解を得ていると考えられる。  
「わかりません」の回答が24%にのぼることが生徒の数値を押し下げた理由とみられる。

○スクールカウンセラーの面談は放課後までほぼすべての面談時間が埋まっており、多くの生徒がお世話になっている。またカウンセラーとのカウンセリングを通して、学校生活への適応が促されている生徒も多い。

## 体験活動の推進に関する質問

### 6 部活動の活性化に努めていると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒 83.2%（前年度比－5.8ポイント）、保護者 77.7%（同－5.6ポイント）と両者ともに低下するという結果であった。

○文武両道の進学校として、さらに高い次元での活動を目指して活性化に努めていきたい。

### 7 学業と部活動の両立がなされるような指導を行っていると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒 66.9%（前年度比－4.3ポイント）、保護者 64.5%（同－9.4ポイント）となっており、保護者に関しては大きく下げることとなった。保護者の自由意見から、定期テスト週間前の部活動の在り方などについて厳しいご指摘をいただいている。各部活動の顧問に周知し、文武両道を目指して改善していく必要がある。

○文武両道の進学校として、高い目標を目指してメリハリのついた学校生活を送れるように支援していきたい。

### 8 学校行事は生徒の学校生活を充実させていると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒 88.7%（前年度比－5.5ポイント）、保護者 93.6%（前年度比＋0.4ポイント）と両者の評価が分かれた。生徒はそれぞれの学校行事に得て・不得手を感じており、自由意見を見ると、特にマラソン大会に対して否定的な意見が多くみられた。逆に保護者はマラソン大会への肯定的な意見を述べている点が特徴的であった。

○令和5年度に続きほぼすべての行事を開催することができた。学校としては生徒が楽しむためだけではなく、知・徳・体の調和が取れた人材の育成を目指して、安全・安心で充実した学校行事の実践に努めたい。

○生徒にとって学校行事は高校生活の大きな成長の機会となっている。課題を見直し、生徒が主体的・意欲的に取り組める学校行事を目指していきたい。

### 9 地域との交流活動やボランティア活動は充実していると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒 83.6%（前年度比－1.5ポイント）、保護者 67.0%（前年度比－11.1ポイント）となり、特に保護者の評価が厳しい結果となった。キャリアアクションや生徒会活動、部活動などを通して地域との交流やボランティアには取り組んでいるが、保護者にうまく伝わっていなかったと考えられる。

○HPの有効活用など、今後も生徒や保護者に対しての啓蒙活動や意識の高揚に努めたい。

## 進路指導の充実に関する質問

- 10 教員は面談を通じて生徒理解や保護者との相互理解に努めていると思いますか。
- 11 進路選択に関わる情報を提供していると思いますか。
- 12 進路指導は生徒個々の進路実現のために効果的に実施されていると思いますか。
- 13 キャリアアクション・プロジェクトは生徒自身が自分の進路について考える機会を増やしていると思いますか。

・生徒・保護者いずれの回答も、－４～－６ポイントの低下となっているが、冒頭で説明したようにアンケートの回答方法を変えたことによる、より現実的な数値と捉えている。

○目の前の生徒の希望実現にジャストフィットした進路情報を発信できるように日頃からそのためのアンテナを高くしていきたい。また、わかりませんという保護者の回答が問いによっては20%に達している。判断していただく材料を提供できていないという見方もできるので、こうした声を大切にしていきたい。

○キャリアアクション・プロジェクトは１年から３年まで一つの流れとしてつないでいき、さらに進路実現において有用な活動になるよう更なる充実をはかりたい。

## その他の質問

- 14 学校の情報はPTA総会・学年PTA・各種の広報や配布物・ホームページ等をとおしてご家庭に届いていますか。

・肯定的な回答が、生徒84.8%（前年度比－0.6ポイント）、保護者79.5%（同－6.8ポイント）との結果であった。

○HPやClassi、一斉メールなど複数のツールを併用して、確実に家庭に届くように工夫していきたい。

- 15 教職員は一人一人の生徒を大切にし、いじめを許さない毅然とした態度で生徒に接していると思いますか。

・肯定的な回答が、生徒80.8%（前年度比－5.8ポイント）、保護者70.5%（同－8.5ポイント）との結果であった。

○「いじめは絶対に許されない」という強い信念をもって、思いやりのある生徒を育てられるように、今後も指導にあたっていきたい。

- 16 小山西高校にお子様を入学させてよかったと思いますか。

・肯定的な回答が、生徒82.2%（前年度比－3.9ポイント）、保護者91.1%（前年度比－1.0ポイント）と、一定の評価を得ることができた。検体他校と比較しても、肯定的な評価であることが見て取れる。しかしながら、生徒の評価が低下していることから、生徒にとって魅力のある学校となるよう目指していく必要がある。

○「わからない」と回答する生徒が7.3%と一定数いるため、学年進行とともに充実した学校生活を送り、肯定的な回答へと変わるように教育活動の充実を図りたい。

17・18・19

今後、小山西高校で特に重点的に取り組んでもらいたい教育活動は何ですか。3つ選んでください。最も期待するものを回答番号17に、次に期待するものを18に、3番目に期待するものを19にそれぞれマークしてください。

- |                                             |            |             |             |
|---------------------------------------------|------------|-------------|-------------|
| [1] 部活動の活性化                                 | [2] 学力の向上  | [3] 進路指導の充実 | [4] 徳性の涵養   |
| [5] 規範意識の育成                                 | [6] 自主性の確立 | [7] 体験活動の推奨 | [8] 情報教育の充実 |
| [9] 国際化社会への対応 [0] その他（マークシート裏面に具体的に書いてください） |            |             |             |

- ・最も期待するものに着目すると、生徒は[2]学力の向上、[1]部活動の活性化、[7]体験活動の推奨の順に関心が高くなっている。保護者は、[3]進路指導の充実を挙げている。保護者は[3]進路指導、[2]学力の向上、[6]自主性の確立の順に関心を持っている。特に生徒の[7]体験活動の推奨、保護者の[3]進路指導の充実についてはそれぞれ前年度比＋7.0ポイント、＋12.2ポイントと大幅に増加しており、コロナ禍の影響に対する反動や大学入試の変化に対する不安等によるものと推察される。

○キャリアアクションプロジェクトを中心とした体験活動や進路情報の提供など個に応じた学習指導・進路指導を深めていき、教育活動の更なる充実に努めていきたい。

○生徒は昨年度とは異なり、進路指導の充実が上位に入っていない。一方、保護者は進路指導の充実が一番となっている。生徒からするとキャリアアクションプロジェクトなどのキャリア教育が充実していると受け止めているが、保護者としては本校への期待ということを加味しての結果であると考え。生徒と保護者の立場の違いを理解しながら、本校として注力すべき取り組みを考えていくことが大切である。